

# ダニエルの書 第二巻

## 異教

Jeff Pippenger

2023-11-23

私は、レビ記26章の「七たび」がダニエル書の中で「目の前にありながら隠されている」ことを示すと同時に、それが、ダニエル書で人々がつまづく「石」を提示するにあたって神が用いた人々を通して隠されていたことも明らかにしようとしている。この提示の光に従うには「誠実さ」が必要である。私が提案する誠実さの定義は、自己の行動・価値観・方法・原則における一貫性である。それは、神の言葉の中に明らかにされていることが、神の言葉に反する人間の考えと一致しない場合であっても、私たちがその啓示に従うことを求める。

厳しいまでの誠実を、すべての学ぶ者が尊び守るべきである。すべての心は、敬虔な注意を払って、神の啓示された御言葉に心を向けるべきである。このようにして神に従う者には、光と恵みが与えられる。彼らはその律法のうちから驚くべきことを見出すであろう。ペンテコステの日以来、顧みられず見過ごされてきた大いなる真理が、本来の純粋さのままに神の御言葉から輝き出すことになる。神を真に愛する者には、聖霊が、心から薄れてしまった真理を明らかにし、全く新しい真理もまた示してくださる。神の御子の肉を食べ、その血を飲む者は、ダニエル書と黙示録から、聖霊に靈感された真理を引き出すであろう。彼らは、抑えようのない力を呼び起こすであろう。子どもたちの唇が開かれ、人の思いから隠されてきた奥義を宣べ伝えるようになる。主は、この世の愚かなものを選んで賢い者を辱め、またこの世の弱いものを選んで強い者を辱められた。『キリスト教教育の根本原則』474頁。

ダニエル書に見られる人間的な誤りと、神の御言葉に忠実に従おうとしない姿勢、その双方の分かりやすい例は、ダニエル書8章で“daily”と訳されている語に見いだすことができる。誠実さが求めるのは、エレン・ホワイトが実際にそうしているようにその語についてコメントしているのであれば、預言の霊を擁護すると公言するセブンスデー・アドベンチストである私たちは、当然、その語に関する彼女の注解を用いて自分たちの理解を導くべきだ、ということである。

それから私は、『Daily』に関して、『sacrifice』という語は人間の知恵によって補われたものであり、本文に属するものではないこと、そして主はその正しい見解を「裁きの時の叫び」を上げた者たちにお与えになったことを見た。1844年以前、一致があった時には、ほとんどの者が『Daily』についての正しい見解で一致していたが、1844年以後は混乱の中で他の見解が受け入れられ、闇と混乱が後に続いた。Review and Herald、1850年11月1日。

これら二つの文については、最終的に書籍『Early Writings』に収められた際に人間の編集者が記述に対して的外れな定義づけをしているため、いくらでも時間を割くことができるが、それは別の話である。ここでは私たちの目的のために、関連する二点だけを指摘しておきたい。第一に、ホワイト姉妹は「“sacrifice”という語は人間の知恵によっ

て付け加えられたものであり、本文に属するものではない」と述べている。

そのとき私は、ひとりの聖なる者が語るのを聞いた。すると、別の聖なる者が、その語っていた聖なる者に言った。「日ごとのいけにえと、荒廃をもたらす背きに関するこの幻、すなわち聖所と軍勢が共に踏みにじられることについては、いつまで続くのか。」ダニエル書 8:13

前の節は第十四節の答えを引き出す問いであり、その答えはアドベンティズムの中心的な柱であり土台を表している。そして、アドベンティズムの中心的な柱として表されるあの大きな光を生み出すまさにその問いの中で、人間の知恵がその節の翻訳に余分な語を挿入するという誤りを犯していることが知らされる。

1611年版KJV聖書の翻訳には、文字通り何百もの挿入語があるが、それらのうち誤りであると神が指摘しておられるのはただ一度きりである。そして、それは神の言葉を生み出した人性と神性の結合のうち、人間的側面によって生じた誤りであったことは明らかである。さらに重要なのは、もし挿入語「sacrifice」がその節の誤った理解を生み出すものでなかったなら、それについての靈感による註解はまったく必要なかったはずだという点である。それが実際にそうであることは明らかである。というのも、その靈感の註解は、その語がそこにあってはならないと指摘するだけでなく、「裁きの時の叫びを告げた者たち」が、主によって「daily」についての「正しい見解」を与えられたことも明らかにしているからである。誠実さは、私たちがその二つの文を、書かれているとおりにそのまま用いることを求めている。

裁きの時の叫びを発した者たちは、「the daily」を、それが置かれている文脈に応じて、異教または異教ローマを表す象徴として特定した。「daily」と訳されている語はダニエル書に5回現れる。その5回はいずれも名詞として現れている。その語は神の御言葉の中で104回現れ、99回は形容詞として用いられているが、ダニエル書においてのみ名詞として用いられている。欽定訳聖書を翻訳した人々は、その語を99回形容詞として見ていたため、ダニエル書に関しても、他のすべての箇所でも形容詞として現れていることに合わせて、それを形容詞にしようとした。そのために、「sacrifice」という語を付け加えた。しかし神は、Ellen

Whiteを通して、「sacrifice」は省くべきだと言われた。これは、「the daily」は名詞として理解されるべきだということを意味する。

アドベンチズム内部でこの語についての神の勧告に反対する者たちは、その語をキリストの天の聖所における奉仕の象徴だと定義するが、「裁きの時の叫び」を上げた人々は、それを正しく異教と定義した。今日のアドベンチズムは、サタンの勢力の象徴を用いてキリストを表している！

誤った人間の論理によって、「the daily」と訳される語の真の理解はアドベンチズムから隠されてきた。安息日学校の四半期刊行物で長年にわたり折に触れて取り上げられる主題に預言研究の基礎を置くアドベンチストたちは、そうした刊行物を通じて供される内容を安易に鵜呑みにし、しかもそれは、その主題についてのホワイト姉妹のコメントを取り入れることを許すだけの誠実さを持たない牧師たちによって追認されている。

「the daily」をめぐる論争の歴史は1911年ごろに転機を迎えた。このときホワイト姉妹は、「the daily」を異教とする先駆者の理解を退け、「the daily」はキリストの聖所における奉仕を表すと教えていた者たちは、その理解を「天から追放された天使たち」から受け取ったのだと、はっきり述べた（20 MR 17）。

「the daily」の真理はホワイト姉妹によって明確に示されており、彼女は「聖なる天使たち」がウィリアム・ミラーの心を導いたこと、そして「天から追放された天使たち」が「the daily」が天の聖所におけるキリストの奉仕を表すと教える者たちの心を導いていることを教えている。「the daily」の真理は、裁きの時の叫びを上げた人々によって提示されたとおりに、ウィリアム・ミラーによって見出された。

さらに読み進めたが、それ [“the daily”] が見いだされている別の例はダニエル書以外には見つからなかった。そこで [コンコルダンスの助けによって] それに関連する語句、「取り去る」——「彼は“the daily”を取り去る」「“the daily”が取り去られる時から」など——を取り上げた。さらに読み進め、その聖句について光は得られないのではないかと思ったが、ついにテサロニケ人への第二の手紙2章7、8節に行き着いた。「不法の奥義はすでに働いている。ただ今抑えている者がいて、それが取りのけられる時まで抑え続ける。そしてその時、あの不法な者が現れる」など。そしてその聖句に至ったとき、ああ、なんと真理が明確に、栄光に輝いて現れたことか！そこにある！それこそが“the daily”だ！さて、ではパウロは「今抑えている者」、あるいは「妨げる者」で何を意味しているのか。「罪の人」や「不法な者」によっては、ローマ教皇制が意味されている。では、ローマ教皇制が現れるのを妨げているものは何か。そう、異教である。すると、「the daily」とは異教を意味しているに違いない。Second Advent Manual, 66.

ミラーが“the daily”は異教を表していると発見したことについて、本当に身の引き締まる点は、彼がその真理をどこで見いだしたのかというところにある。彼はそれを使徒パウロの著作の一節の中に見いだした。そこではパウロは“the daily”を異教と定義するだけでなく、真理への愛を受け入れなかった者たちが強い惑わしを受けると示している。“the daily”をキリストの聖所における奉仕の象徴として受け入れること——すなわち、それは天から追放された天使たちから来た定義であるが——は、アドベンチズムの中で真理の言葉を正しく分けるために必要な誠実さを欠き、ゆえにすでに強い惑わしを受ける運命にある者たちを象徴している。

私たちが特定しようとしている要点から話をそらしたくはありません。その要点とは、「the daily」があるのと同じ幻の中で特定されている「七つの時」が、目の前にありながら人の手によって隠されてきたということです。これは、はるか昔、何世紀も前に人間が犯した翻訳上の誤りが、その後、天から追放された天使たちによって人の心の中で操られ、今日、世の終わりの最後の危機の直前というこの重大な時に、実は目の前に明白にある真理に対して人々の心を盲目にするために用いられている、ということを示す、単なる分かりやすい一例にすぎません。

1910年ごろの時期、“the daily”をめぐる反乱はちょうど始まりかけたところで、W・W・プレスコットとA・G・ダニエルズが、“the daily”に関する基礎的理解を拒否するというサタン的な働きの先頭に立っていた。以下の記事はまさにその時期の書簡であり、ホ

ワイト姉妹が、ダニエル書における“the daily”はキリストの聖所での働きを表しているとするサタンの見解を取り上げている。当時、この二人は、古い開拓者たちの書物に手を入れ、開拓者たちの理解を彼らの新しいサタンの定義へと変更するという考えを推し進めていた。この記事を読むにあたって、私たちが誠実さをもって臨めることを願っている。

私たちの経験のこの段階において、私たちの会議の重要な会合で考慮すべき、私たちに与えられた特別な光から、私たちは心をそらしてはならない。そこには、敵が働きかけていたダニエルズ兄弟がいた。そしてあなたの心もプレスコット長老の心も、天から追放された天使たちに働きかけられていた。サタンの働きは、主があなたがたに持ち込むよう靈感されたのではない一点一画を持ち込ませるために、あなたがたの心をそらすことだった。それらは本質的ではなかった。しかしこれは真理の大義にとって大きな意味を持っていた。もしあなたがたの心がそらされ、一点一画にこだわるようになるなら、それはサタンの策謀による業である。書かれた書物の些細なことを正すことが、大いなる働きをしていることだと、あなたがたは思っている。しかし私は、「沈黙は雄弁である」と命じられている。

私はこう言わねばならない。あら探しはやめなさい。もし悪魔のこの目的が実行されさえすれば、あなたには自分の仕事に着想の点でこの上なく見事なものを見なされるだろうと思われるのです。敵の計画は、あらゆる層の人々の意見が一致しないところに、いわゆる問題だとされる点をことごとく持ち込むことでした。

それではどうなるのか。悪魔を喜ばせるまさにその業が実現することになる。私たちの信仰に属さない外部の人々には、まさに彼らの意にかなうような印象が与えられ、それによって大きな混乱を招くような性格的特質が培われ、人々の前に偉大なメッセージを熱心に掲げるために用いられるべき貴重な時が奪われる。私たちが取り組んできたいかなる主題に関する提示も、すべてが調和することはできず、その結果、信者と不信者の思いは混乱させられるであろう。これはまさに、サタンが起こるようにと計画していたこと-不一致として誇張できることなら何でも-である。

エゼキエル書第28章を読みなさい。さて、ここには、奇妙な霊が姿を現しうる大いなる業がある。しかし主には、滅びゆく魂を救うためになされるべき御業がある。そして、変装したサタンは、私たちの陣営に混乱をもたらすために入り込めるあらゆる隙を見つけ、完璧に埋め、あの些細な相違はすべて拡大され、目立つものとなる。

私は最初から、主がダニエルズ長老にもプレスコット長老にもこの働きの重荷をお与えになっていないことを示されてきました。サタンの策略が持ち込まれるべきでしょうか。この重要な時期に、この「Daily」が思いを混乱させ、働きの前進を妨げるほどの大事として持ち込まれるべきでしょうか。たとえどうであれ、そうであってはなりません。この主題は持ち込むべきではありません。なぜなら、持ち込まれる霊は人を退けるものとなり、ルシファーは一挙手一投足を見張っているからです。サタンの勢力がその働きを始め、私たちの陣営に混乱がもたらされるでしょう。あなたがたは、試金石となる問題でもない意見の相違を掘り起こすようには召されていません。むしろ沈黙こそ雄弁です。私の前にはこの事柄がすべて明瞭に示されています。もし悪魔が企てているように、この件で私たち自身のだれかを巻き込むことができれば、サタンの側の勝利となるでしょう。今や遅滞なくこの働きに取りかかり、意見の相違はいさ

さかも表明しないことです。

サタンは、私たちのもとから出て行った人々をそそのかして悪の天使たちと結束させ、取るに足らない問題をめぐって私たちの働きを妨げようとするだろう。そして敵の陣営では、どれほどの歓喜が[そこ]で起こることだろう。固く団結しなさい、固く団結しなさい。あらゆる違いを葬り去りなさい。今の私たちの務めは、体力と脳神経の力のすべてを注いでこうした違いを取り除き、皆が調和することにある。もしサタンが、その大いなる聖められていない知恵をもって、ほんのわずかでも足場を得ることを許されるなら、[彼は喜ぶだろう]。

さて、あなたがどのように事を進めているかを見たとき、このまま先へ進み、私たちから離れた者たちに、私たちの陣営に混乱を持ち込ませるわずかな機会でも与えるならどうなるか、私は状況全体とその結果を見通しました。あなたの知恵の欠如は、まさにサタンが望むところです。あなたの声高な宣言は、聖霊の感動によるものではありません。神に導かれてきた人々の著作にあら探しをするあなたの態度は神からの靈感によるものではない、と私はあなたに告げるよう指示を受けました。そして、もしこれがダニエルズ長老が人々に与えるという「知恵」なのだとしたら、決して彼に公的な地位を与えてはなりません。彼は因果関係に立って論じることができないからです。この件に関して沈黙を守ることこそ、あなたの知恵です。いま、すでに亡くなった人々の刊行物のあら探しの類は、神があなたがたの誰にもお与えになった務めではありません。というのも、もしこれらの人々——ダニエルズ長老とプレスコット——が、都市で働くために与えられていた指示に従っていたなら、真理を確信して回心した者が実に大勢生まれていたであろうし、[今]は決して手の届かない地位にいる有能な人々も得られていたからです。

世界全体は一つの大きな家族と見なされるべきである。そして、そのような知識の泉、すなわち私たちの主イエス・キリストによって与えられた証しから汲み取ることができるのに、なぜ長年にわたって世界を滅びるに任せてきたのか。真の宗教は、すべての人を、私たちが善を施す相手として見るように教える。

これは長年にわたって印刷されてきた、「均衡の取れた心」——アンドリューズ長老への証言。思いは、いつ語るべきか、どの重荷を取り上げて担うべきかを見分ける力となるように培うことができる。キリストがあなたの教師だからである。そして私は、あなたが自分の知恵を高く掲げ、意見の相違を招く道を進んでいるのを[あなたを見たときに]、あなたのために大いに恐れた。主は、そうすることが知恵[である]ときに沈黙を守ることのできる賢い人々を求めておられる。あなたが全き人でありたいなら、イエス・キリストによる聖化が必要である。今、始まったばかりの働きがあり、すべての牧師に、各会議のすべての会長に、知恵が見られるようにしなさい。だが、ここには何年も前にあなたが取り組むべき働きがあり、まさにこの働きのためにあなたが声を上げることが必要とされていたのだ。キリストは御自分の民すべてに、何をすべきか、してはならないことは何かについて、特別な指示をお与えになった。そして、主の義を実行するために私たちに残されている時はわずかである。あなたは主の道を理解できる。あなたが会長に据えられた後、自分の案のとおり物事を運びようとするあなたの目的を、私は見た。あなたは自分が驚くべきことを行うだろうと考えていたが、それは神があなたの手で成させるためにお与えになった業ではなかった。

今、主があなたを奉仕に受け入れておられるのであれば、あなたの働きは、抑圧することではなく、可能なかぎりあらゆる欠乏を解消することである。だがあなたはごく早い段階から、知恵と聖められた判断があなたにおいて現されていないという証拠を示してきた。あなたは、主が光をお与えにならない限り受け入れられないような事柄を、声高に打ち出した。

私は、あなたをさらにもう一年、大会の会長に選出するような、そのような性急な動きは行うべきではなかったと示されました。しかし、この件が祈りをもって主の御前に持ち出されるまでは、そのような性急な取り決めをこれ以上することを、主は禁じておられます。そして、会長に委ねられている主の働きがきわめて厳粛な責任であるというメッセージがあなたに与えられているのですから、「デイリー」の件についてあなたがしたように激昂し、自分の影響力でその問題が決まると思い込むことは、あなたには道徳的権利がありませんでした。重い責任を担ってきたハスケル長老がおり、アーウィン長老もおり、同じように重い責任を負っている者として名を挙げるのできる人がほかにも何人かいます。

年長者へのあなたの敬意はどこにあったのですか。責任ある人々すべてにその件を吟味させることなくして、あなたはどんな権威を行使できたというのですか。では今、その件を検討しましょう。なおざりにされてきた働きを前にして、その働きをさらにもう一年遂行しようとするあなたの熱心を示すことが主のご判断によるものかどうか、私たちは今あらためて考え直さなければなりません。もし、あなたと一致して協力する助けを得て、その働きをもう一年続けるのであれば、あなたとプレスコット長老のうちに変化が起こらなければなりません。そして、神の御前で自分の心を低くしなさい。主はあなたがたのうちに別種の経験の現れを見なければなりません。というのも、もしこの現在の[時]に人々が再び回心する必要があるのだとすれば、それ[である]のはダニエルズ長老とプレスコット長老です。

知恵ある者であり、神の恵みの働きによって再び回心したことの証拠を示す七人を選ぶべきである。というのも、原因から結果へと推論することもできないほどに盲目になり、働きの責任を担ってきた人々やこれらの会議の会長たちを無視し、二年以上にわたって働きを担ってきた人々をも顧みず、その衝動的な成り行きとして、長年彼らの前に掲げられてきたまさにその働き-すなわち都市における働き-をないがしろにし、助言を求めるにあたって年長者には全く、あるいはごくわずかしか注意を払わず、人々に与えようと自分たちで選んだ事柄を宣言するような者は、そのように壮大で驚くべき働きを託すには安全でないことを、それ自体が証しているからである。

キリストは死んでおられない。このような奇妙な方法でご自身の働きが進められることを、決してお許しにならない。書籍には手を触れないでおきなさい。もし何らかの変更が不可欠であるなら、その変更における調和は、[神]によって首尾一貫したものとされる。しかし、重大な責任を伴うメッセージが人々に委ねられているとき、[神]は愛によって働き、魂を清める忠実さを求められる。ダニエルズ長老とプレスコット長老はいずれも再回心を必要としている。奇妙な働きが入り込み、それはキリストが私たちの世界に来てなされた働きと調和していない。そして、真に回心した者は皆、キリストのわざを行う。

私たちは皆、父なる神に栄光を帰する働きをそれぞれ成し遂げなければならない。私たちは危機に至っている—この準備の時に、イエス・キリストの品性に自らを合わせるのか、さもなければそれを試みないのか、どちらかである。ダニエルズ長老、同様の状況でこれまでしてきたように、自分の声を高らかに響かせる自由があるとは思ってはならない。そして理解しなさい。会議の会長は支配者ではない。彼は、神に認められて会長の職にある賢明な人々と協力して働くのである。神に受け入れられた筆による印刷された書物の著作に干渉する自由は、彼にはない。彼らは、支配的で専横的な力をより控えることを示さない限り、もはや影響力を行使してはならない。危機は到来した。神が辱められることになるからである。

「主は未開拓の都市をどのように見ておられるのか。キリストは天におられる。今やその宣言はこうでなければならない。『王的支配はない。そして今こそ、この世の危機である。今、救う力も滅ぼす力もわたしにある。今こそ、すべての者の運命がわたしの手のうちにある時である。わたしは世を救うために自分の命を与えた。そして「わたしがもし上げられるなら」、わたしが授ける救いの恵みは、神のかたちに倣って形造られ、わたしと一つとなるすべての者が、贖いの恵みのわたしの力をもって、わたしが働くように働くことを証明するであろう。』」だれでも望む者は、主が与えられる勧告のもとで責任ある立場にあるとき、自分たちに与えられた働きを行うために、その兄弟たちと共にこれをしっかりと担い、また、世をこれほどまでに愛して、その救いのために御自分の命を完全な犠牲としてお与えになったお方と、完全な調和のうちに働くことを、最も切実に求めなければならない。わたしたちの牧師たちに語る。彼らがわたしたちの都市における働きに着手するときには、御言葉の奉仕に、静かな神聖さが伴っていなければならない。もしわたしたちが…… [このページの下三分の一は空白のままである。]

日記から書き写します。イエスにあるそのままの真理を—それを語り、そのために祈り、その単純さのままに一言一句を信じなさい。信仰から離れ、惑わず霊に耳を傾け、ついこの間まで私たちと共に信仰にあった人々に過ちを示したところで、あなたは何を心得るのでしょうか。あなたは悪魔の側に立つのですか。手つかずの畑に目を向けなさい。私たちの前には世界的な働きが控えています。私はジョン・ケロッグに関する示しを受けました。

非常に魅力的な人物が、自ら提示しているもっともらしい論法の背後にある思想を体現しており、それは真の聖書の真理とは異なる見解であった。そして、何か新しいものに飢え渴いている人々は、[あまりにもっともらしい] 考えを唱えていて、プレスコット長老は大きな危険にさらされていた。ダニエルズ長老も、これらの見解に至る所で語られれば新しい世界になるかのような妄想にとらわれてしまう [危険に] 大いにさらされていた。

そうなる。しかし、彼らの心がそのように没頭している間に、私は、ダニエルズ兄弟とプレスコット兄弟が、自らの経験の中に霊的 [心霊主義的] に見える主張を織り込み、もしできるなら選ばれた者さえも欺くような美しい言説へと私たちの民を引き寄せていることを示された。私は筆を執って [その事実を] 記さなければならない。すなわち、これらの兄弟は、真理を不確かなものにしてしまう彼らの迷妄的な考えの中に欠陥を見るようになるが、[それでも] 彼らは [あたかも彼らが] 大いなる霊的識別

力 [を持っている] かのようには際立って見える [だろう] . いま私は彼らに告げなければならぬ。私がこの問題を示されたのは、ダニエルズ長老が「Daily」に関する自説を擁護してラッパのように声を上げていたときであり、その後の結果が示されたのだ、と。私たちの民は混乱し始めていた。私はその結果を見た。そして私に与えられたのは、もしダニエルズ長老が結末を顧みず、このように印象づけられて自分は神の靈感のもとにあると信じ込むなら、懐疑が至るところで私たちの隊列の中に蒔かれ、私たちはサタンがその使信を運ぶ場に身を置くことになる、という警告であった。固定した不信と懐疑が人の心に蒔かれ、奇妙な悪の収穫が真理に取って代わるであろう。- Ms 67, 1910, 1-8. Manuscript Release, volume 20, 17-22.

審判の時の叫びを告げた者たちは、ダニエル書における「the daily」に関する正しい見解を与えられていた。ダニエル書を翻訳した人間の手を通し、その後には天から追放された天使に導かれていた人間たちによって、「the daily」の正しい理解は、目の前にあるにもかかわらず隠されてしまった。ダニエル書で「the daily」と訳される語が現れるとき、そこに人間が付け加えた「sacrifice」という語を含めるべきではない。ダニエル書8章13節は、ダニエル書の中でこれが現れる五回のうちの一つである。まさにその節で、レビ記26章の「seven times」もまた示されているが、同じ種類の人為的操作によって、それも目の前にありながら隠されてきた。

次回の記事でこの事実を取り上げます。